

1 開会

事務局：定刻となりましたので、只今より第2回男女共同参画計画等策定委員会を開催させていただきます。本日は公私ともご多用のところ、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。本日会議については、委員10名中9名の出席をいただいております。王寺町附属機関の設置に関する条例第6条第2項の規定により成立要件を満たしていることをご報告します。なお、当委員会の要旨と委員会委員名簿ホームページで公開したいと考えておりますので、ご了承ください。開会にあたりまして、音田委員長よりご挨拶をお願いします。

音田委員長：開会挨拶

事務局：ありがとうございます。なお、本日委員会終了後、平井町長へ計画に係る諮問に対する答申を行う予定となっておりますので、よろしく申し上げます。それでは音田委員長、議事進行よろしく申し上げます。

2 王寺町男女共同参画計画改定概要について

音田委員長：それでは案件2王寺町男女共同参画計画改定概要について、事務局より説明願います。

事務局：内容説明

音田委員長：只今の説明について、何かご質問、ご意見がございましたら、ご発言願います。

無いようでしたら、次の案件に移ります。

3 答申書（案）について

音田委員長：案件3の答申書（案）について、私から説明させていただきます。

内容説明

今の説明で何かご質問とかご意見がございましたらご発言願います。

池島委員：ちょっとよろしいですか。ご説明をしていただいた中で「王寺町女性ミライサポート」（困難な問題を抱える女性の相談窓口）の表現について、単純な自分自身の印象ですけど。「ミライ」をです、ひらがなにされたほうが、やっぱり柔らかい感じの方がいいかなと。

事務局：おっしゃるようにひらがなの方が柔らかくて良いと思われまますので、ひらがなに変えて広報していきます。

音田委員長：他には何かございますか。特にならなければ、次に移りたいと思います。案件4のその他について、事務局から説明させていただきます。

事務局：繰り返すにはなりますが、計画のスケジュールについて先ほどご説明させていただきましたが、この後平井町長への答申を行います。こちらの計画本編につきましては、ホームページで公開させていただきます。計画改定概要についても同じくホームページで公開させていただきますとともに、各戸配布する予定です。計画策定に関しまして、委員、アドバイザーの皆様におかれましては、慎重審議をいただきまして、貴重なご意見を多数いただきましたことを、深く感謝申し上げます。また音田委員長、岡井委員長におかれましては、策定委員会の議事進行や計画案の確認等ご尽力いただきまして重ねて感謝申し上げます。

4 その他

事務局：折角の機会ですので男女共同参画計画に関して、いろいろなご意見をいただ

けたらありがたいなと思うのですが、ここからは座談会の形で、ご意見をいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

今年度も6月23日から29日の男女共同参画の週間に男女共同参画フェアというイベントを開催しており、ファシリテーターとして、中川委員にも出演していただきました。女性の起業家やボランティアの活動をされてる方、また、フリーランスで働いておられる方、ワークライフバランスを実践して職務に従事されてる方など様々な方にファシリテーターとして呼びさせていただいて、約700人ぐらいの方に来場いただいたんですけども、開催後の検証の中で男性のファシリテーターも必要ではないかという意見がありまして、次年度に向けて検討しているところです。今回は法の成立に伴う計画改定であったため、困難女性支援に特化した議題になっていましたが、男性について、もし良かったら色々意見交換いただけたら、ありがたいです。

岡井副委員長：男性は特に退職されてから、地元でのネットワークづくりが苦手と言われてる。男性はそれまで競争社会であったりとか、人に頼らずに1人で頑張るみたいなことが根にあるので、なかなか男性が集まる場所というのはなく、OECDとかでもいろんな統計が出てまして、日本の男性の社会的孤立とか、メンタル的な問題とか、あるいは、非常に悲しいことですが、自死、自殺みたいな数値も高く、事務局からご説明ありましたように今回、法律改正が女性の困難に関する内容なので、どうしても男性のことがちょっと後ろにいつてしまいがちですけど、せっかく皆さんにお集まりいただいているので、いろいろと案や現状など意見交換できたらというふうに思います。もしよろしければ隣同士ディスカッションお願いします。

中川委員：男性をテーマにするということがこれだけ新鮮かということに驚いた。確かに思い返せば、例えば俳優さんを思い返しても、何となく影のある石原裕

次郎さんみたいな時代から、松田優作さんがカッコいいって言われる。

女性から見てカッコいい男性は孤独であることみたいなのがあったんじゃないかなとか。アニメ思い返しても明日のジョーとか星飛雄馬とか、子供に努力することが男性の美德だとしながら、男性の居場所づくりなどの問題が今まさに新しい感覚で始まっているんだなということを改めて話しながら感じたところですよ。

池島委員：今のアニメの話で巨人の星は我々も小さいころ見ていました。主題歌のテーマが男はド根性ですね。女性のアニメは何だったかと言うと、バレーボールのアタック No.1 です。主題歌のテーマは忍耐の女。つまり戦後、男は根性、女は忍耐というのがアニメソングを通しての道德教育ですね。そのあたりから考えると、やっぱり文化的なものもちょっと研究していくと面白いですね。そう考えてみるとやっぱり戦後から起こってきているそういった儒教思想というか、こうあるべきだという考え方から、だんだんと変遷してきていますね。今回のミラノオリンピックだって、やっぱり日本人ってすごいなと思う。スポーツの世界でも進歩するエネルギーをだいたい蓄えてるんじゃないかなと思うんです。ところがまだ世の中、昔からの考え方あって、男性はこうあるべきだという考えがずっと蔓延してる。そういうところからどう脱皮していくかっていうことを、戸惑ってる方が多いように思います。

今ディスカッションしていた話の中で、他府県から、転入してこられてという話が合って・・・。

前田委員：夫の話ですが、初めは王寺に転入して、初めは地域のことは全然わからなかったけど、防災委員をしたことがきっかけで、いろんな人との関わりができた、地域の中の一員として役割ができたということでまた繋がりもできて、こんな人なんやっってわかってもらえる場ができたと思う。

○ 答申

音田委員長から平井町長へ答申

○ 平井町長挨拶

皆さんこんばんは。今日は結構寒いですね。明日はお水取りの最終日です。お水取り終われば春がやってくるというのは昔から言うんですけども、今週はまだちょっと冷えるみたいで、体調管理に気をつけていただきたいということでございますが、今回答申をいただきました困難な問題を抱える女性支援ということで、女性相談支援員の確保といいますか、やっぱり相談の質を高めていくかということが課題であろうかなというふうに思っておりますし、そこから様々なセクションにどう繋いでいくかということかなと思っております。それと、こども家庭センターという組織に、委員のみなさまからアイデアをいただきまして、女性みらいサポートという、本当に良い名前をいただきました。頑張って、住民の皆さんに知っていただくように周知をやっていければと、かように思っています。王寺町においては皆さんに協議いただいた計画を元にさせてもらって男女共同参画は進めていると思っておりますけど、個人個人のそれぞれの課題をどうすくい上げて、どう繋いでいくかというのは、簡単にはいかないかもしれませんが、様々な関係者の方の役割をうまく繋いで、困難な問題を抱える女性が少しでも前を向いて進んでいっていただけるように、様々な課題に対して、臨機応変に対応できるように、みんなの力を結集して対処していきたいというふうに思っておりますので、また今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

4. その他の続き

有馬委員：私の父なんかでしたら、もう亡くなってるんですけど、会社勤めがずっと

長かったから会社の友達と遊ぶんですね。会社を定年退職しましても。

だんだん友達が亡くなって行って、友達がもういなくなったら家に引きこも

ることになってしまう。美しヶ丘自治会は活動とかも、盛んで、防災活動と

かもやってるんですけどそういうところに行ってみてはと言うんですけど、

母は行くけど父は行かない。家で一日中テレビ見て、たまに畠田公園を1人

で散歩行って帰ってきてまたテレビ見てみたいな感じで。そういう生活をずっとしてたから、そういう年になってしまってからではなかなか地域活動に参加したりとかできなくなって、男性とか家でひきこもってる高齢者の方とかも多いんじゃないかな。

辻岡委員：男の方が退職して、すぐ地域に溶け込むのが難しいなという話をしてたんですけども。子供の見守り隊があって、結構たくさんの方が入ってくれたんですね。入ってくれはったしたら中で友達関係を作ってもらえるんで、趣味の話題の中で、自分の入ってるクラブ活動なんかに誘ってというように、地域に溶け込んで活動してる人は、結構おられる。ただ、クラブ活動の中で3時のお茶の時間の片づけを女性に任せきりになるようなケースもあって、徐々に変わっていかないといけないなということをお話してました。

岡井副委員長：僕今50歳を超えましたけど昔いろいろスポーツやってまして、子供の頃は先ほど話にありましたけど、指導において感情はやっぱすごい抑圧されるんですよ。「笑うな」「白い歯を見せるな」と野球で指導されたりとか。「男は泣くな」と言われ続けてみんな感情を表現するのが下手になる。感情を出さないと人とも打ち解けられないのでその辺が今多様性とかジェンダーレスと時代が変わっていくにつれ、いろんなことが変わって行って、今は進学も学区がなくなっていったるんで、学校もみんな選択していく。私立高校行った後、違うところに行ったりするんで、同窓的な集まりもなくなってきますし、昔は消防団とかみんなが行くような活動もあったと思うが、だんだんそういったものの加入率が下がっていると思う。今皆さんからいろんなご意見があったように、何か新しい時代の男性の居場所作りみたいなもの考えていかないといけないって思います。今日はそういった始まりになるような、良い議論ができたと思いました。

音田委員長：ここにいらっしゃる皆様にもそれぞれ立場で取り組んでいただきたいと思います。お忙しい中、会議に参加していただきありがとうございました。良い計画が出来上がりました。ただ、計画ができたということはこれで終わりではなく、これからがスタートだと思います。これからどういうふうに行われていくかっていうことをしっかり見守っていかないといけないと思います。町の事務局の方からお話を聞いてましたら、女性相談支援員の育成を行っていかなくてはならないということをおっしゃってました。やっぱりそこがしっかりしてないと、進んでいくことにならないと思います。また今後もこういった会議の場を持てたらと思います。長い間ご協力いただき、ありがとうございました。